

普及活動情勢報告（令和7年12月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

環境への負荷を減らした米づくりの実践 ～大津E C O倶楽部一風プラス～



勉強会の様子

11月21日、集落営農組織の大津E C O倶楽部一風プラスがJ A高知市大津支所で、環境保全型農業直接支払交付金制度などの勉強会を行い、組合員や関係機関など8名が参加しました。

当該制度の栽培要件や、令和8年度からの取組について検討を行いました。

普及所からは、制度の対象となる生産活動の一つである病害虫の総合防除について説明しました。

組合員からは、「現在の化学農薬や化学肥料を減らした栽培方法と何ら変わりがない、取り組もう」と積極的な意見がありました。

今後も普及所は、高知市などの関係機関と連携し、大津E C O倶楽部一風プラスの活動を支援していきます。

自慢の品を売り出そう ～J A高知市女性部鏡支部加工部の商品開発～



検討会の司会をする
普及指導員

12月9日に、J A高知市女性部鏡支部加工部の5名が、鏡加工場でアドバイザーを招いて梅シロップパッケージのデザインを検討しました。

普及所はアドバイザー派遣の調整、当日の話し合いを支援しました。

アドバイザーからは、特徴を伝えられるパッケージ、高級感の出し方のアイデアや事例のアドバイスを受け、部会員で商品の特徴は何か、ターゲット層のイメージ、どう使ってほしいかなど意見を出し合い、イメージを固めていきました。

普及所は引き続き、加工品販売の活動を支援していきます。

輸出も見据えた販路拡大に向けて ～イチゴ生産者GLOBALG. A. P.更新審査～



審査の様子

12月9、10日に、高知市内のイチゴ生産者を対象に、GLOBALG. A. P.更新審査が行われました。

普及所は、更新審査に向けて、ほ場や取扱い施設における工程のリスク評価の見直し、記録等の点検活動を支援しました。

審査を終えた生産者からは「イチゴの経営は年々厳しくなっており、更新費用も高額ではあるが、取引の大きな強みになっている。」と、認証取得が販路拡大に繋がっている様子がうかがえました。

普及所は、今後も生産者のGAPの取組を支援していきます。

知って、買って、食べられる！～牧野野菜マルシェの開催～



野菜販売の様子

12月15日、はりまや橋商店街の「はりまやアンサンブル」にて、伝統野菜生産グループTeamMakino+サポーターズ主催の、牧野野菜マルシェが開催されました。普及所は、マルシェの運営を支援しました。

マルシェでは、潮江菜や山内家伝来大根などの伝統野菜を使った料理や加工品の販売、また、潮江東小学校と布師田小学校の児童による野菜販売が行われました。訪れた消費者からは、「どうやって食べたらいい？」「普通の野菜との違いは？」など質問があり、児童たちは授業で作った冊子を渡し、一生懸命に説明していました。

普及所は、今後もTeamMakinoの伝統野菜の生産活動を支援していきます。